

生物資源環境科学府

I	教育の水準	教育 31-2
II	質の向上度	教育 31-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 研究者を養成するための教育研究の専門性以外に、生物産業界や各種行政機関で産業創成や公的サービスに従事するためのノンアカデミック能力の養成のため、平成22年度に修士課程は資源生物科学、環境農学、農業資源経済学及び生命機能科学の4専攻構成に、博士後期課程はこれら4専攻に生物産業創成を加えた5専攻構成に再編している。また、農林水産業や生物産業界への貢献、アジアを中心とした国際貢献を通じ実社会との繋がりを意識した学府共通教育カリキュラムを、副専攻として設置している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- アジアにおける農学の諸問題を英語で学修する「アジア農学教育プログラム」や、国際的な場でリーダーシップを発揮するプロフェッショナル人材の育成を目的とした「生物産業キャリアパス設計教育プログラム」等の副専攻プログラムを実施している。
- 留学生を対象に英語によるカリキュラムを実施する国際開発研究特別コースを設置し、中国、韓国、台湾、ベトナム、タイ、ミャンマー、インドネシア等のアジア各国をはじめ、ヨーロッパ、北南米、アフリカ、中近東等の各国より、国費及び私費留学生を受け入れているほか、アジア農学教育プログラムを受講する日本人学生には当該コースの授業科目の受講を可能としている。

以上の状況等及び生物資源環境科学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における標準修業年限内の修了率は、修士課程は75.9%から91.2%の、博士後期課程は42.1%から63.5%の間を推移している。
- 平成25年度における学生への学習の達成度・満足度に関するアンケートでは、学習の達成度については各項目で74.4%から81.4%、学習の満足度については各項目で65.1%から83.7%が肯定的な回答をしている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における就職率について、修士課程は92.4%から95.7%の間を推移しており、主な就職先は、中央官庁、地方自治体、製薬業となっている。また、博士後期課程修了生及び単位取得退学者は68.9%から90.9%の間を推移しており、主な就職先は、大学等の教員、科学研究者、技術者となっている。

以上の状況等及び生物資源環境科学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- アジアにおける農学の諸問題を英語で学修する「アジア農学教育プログラム」や、国際的な場でリーダーシップを発揮するプロフェッショナル人材の育成を目的とした「生物産業キャリアパス設計教育プログラム」等の副専攻プログラムを実施している。
- 留学生を対象に英語によるカリキュラムを実施する国際開発研究特別コースを設置し、アジア各国をはじめ、ヨーロッパ、北南米、アフリカ、中近東等の各国より、国費及び私費留学生を受け入れているほか、アジア農学教育プログラムを受講する日本人学生には当該コースの授業科目の受講を可能としている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成22年度から平成26年度における就職率について、修士課程は92.4%から95.7%の間を推移しており、主な就職先は、中央官庁、地方自治体、製薬業となっている。また、博士後期課程修了生及び単位取得退学者においては68.9%から90.9%の間を推移しており、主な就職先は、大学等の教員、科学研究者、技術者となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。